# 災害拠点病院医療救護要員研修の現在地と災害時拠点病院の役割

岡山済生会総合病院
救急科　野﨑哲

# 本研修の目的

- 「災害拠点病院としての責務として、日ごろから各種災害に対処できるよう組織の充実強化を図り、災害救護体制を整える必要がある。非常時に迅速に災害拠点病院同士が連携し、災害急性期に活動できるよう救護員の訓練研修を行う。」
- 「特に災害救護の基本研修を繰り返し開催し、必要な知識・技術を修得し、災害医療活動の円滑な推進を図るため救護員の底辺を拡大し、救護員同士の協力と協調性を養うことを目的とする。」

- 救護要員研修を活用して幹事病院内での災害医療に係る意識啓発を行いつつ、運営（実施）ノウハウを生かす
- 各災害拠点病院で熟度に応じた訓練や研修に実施する

- 県が関係する研修では
- 　初級：救護要員研修
- 　中級：ローカルDMAT研修
- （上級：日本DMAT研修　＊国主催）

# 過去の災害拠点病院医療救護要員研修の抜粋

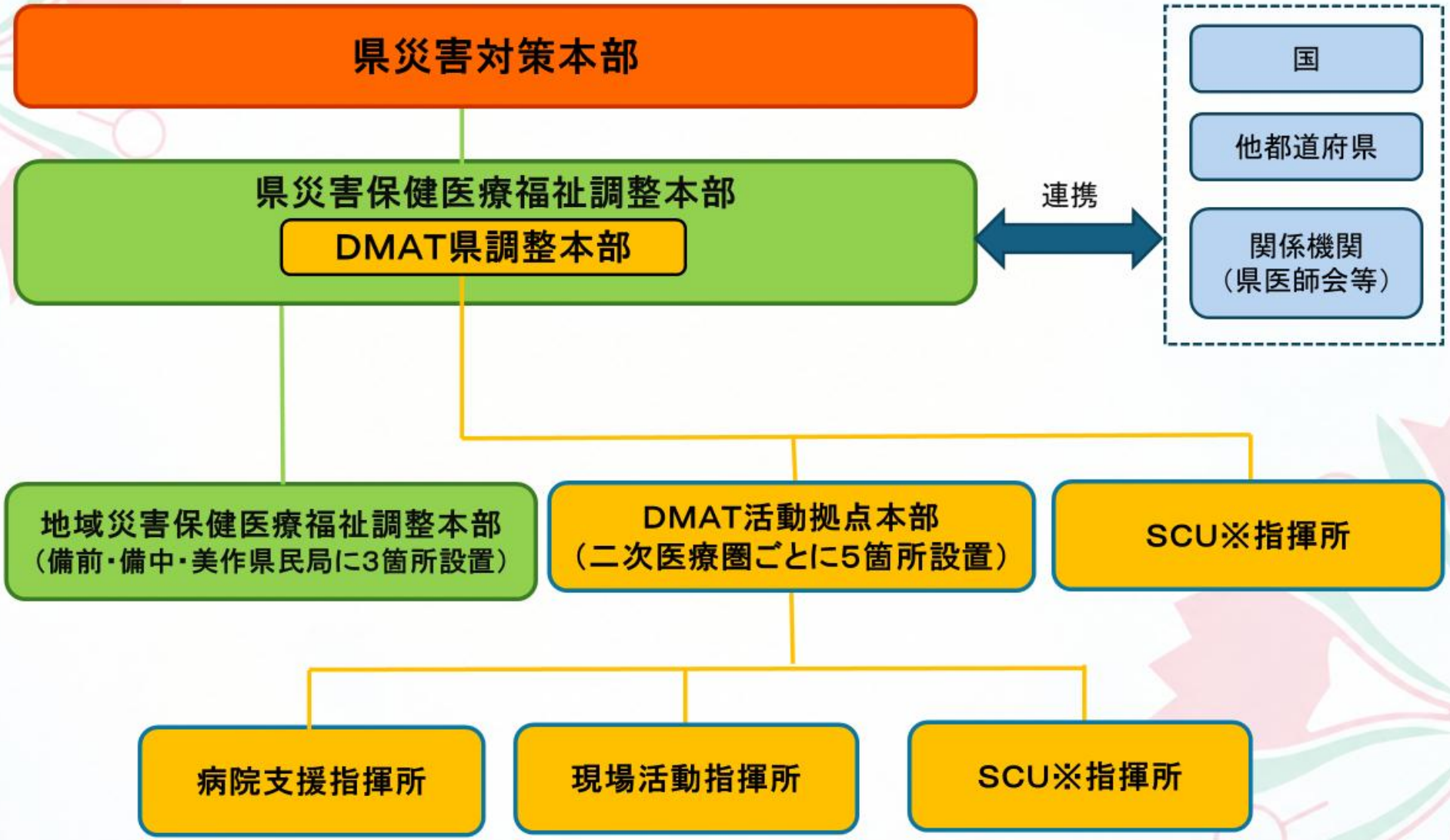
| 西暦 | 和暦 | 場所 | 内容 | 西暦 | 和暦 | 場所 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1997 | 9 | 岡山赤十字病院 | 実技：トリアージ | 2009 | 21 | 岡山済生会総合病院 | エマルゴトレーニング |
| 1998 | 10 | 岡山赤十字病院 | 実技：トリアージ（模擬傷病者） | 2010 | 22 | 倉敷中央病院 | 列車事故想定救護活動 |
| 1999 | 11 | 岡山赤十字病院 | 実技：地震シミュレーション（ヘリポート） | 2011 | 23 | 岡山赤十字病院 | 東日本大震災報告会 |
| 2000 | 12 | 岡山赤十字病院 | 駅事故、救護所訓練 | 2012 | 24 | 落合病院 | トリアージと救護所 |
| | | 津山中央病院 | 風水害、救護所訓練 | 2013 | 25 | 川崎医科大学 | 実技：トリアージ |
| 2001 | 13 | 岡山済生会総合病院 | 多数傷病者事案訓練 | 2014 | 26 | 岡山赤十字病院 | 除染訓練 |
| | | 岡山赤十字病院 | 航空機事故想定訓練 | 2015 | 27 | 高梁中央病院 | 実技：トリアージ |
| 2002 | 14 | 倉敷中央病院 | コンビナート事故 | 2016 | 28 | 岡山医療センター | 机上救護所訓練 |
| | | 岡山赤十字病院 | NBC除染研修 | 2017 | 29 | 岡山赤十字病院 | 救護所運営訓練 |
| 2003 | 15 | 落合病院 | ICLSに準じた訓練 | 2018 | 30 | 岡山赤十字病院 | 西日本豪雨検証会 |
| | | 岡山赤十字病院 | 担架の取り扱い | 2019 | 1 | 岡山大学病院 | BCP検討 |
| 2004 | 16 | 大杉病院 | トリアージ・JPTEC | 2020 | 2 | 未開催 | |
| 2005 | 17 | 川崎医科大学 | 実技：トリアージ | 2021 | 3 | 未開催 | |
| 2006 | 18 | 岡山赤十字病院 | 実技：トリアージ | 2022 | 4 | 岡山赤十字病院 | BCP検討 |
| 2007 | 19 | 津山中央病院 | 津山消防訓練に参加 | 2023 | 5 | 岡山市民病院 | DHCoS |
| 2008 | 20 | 岡山赤十字病院 | 電車事故想定訓練 | 2024 | 6 | 津山中央病院 | DHCoS、図上訓練 |
| | | | | 2025 | 7 | 川崎医科大学総合医療センター | 実技：トリアージ、DHCoS |

# 岡山県が動き出すとき

# 岡山県DMAT調整本部の設置基準

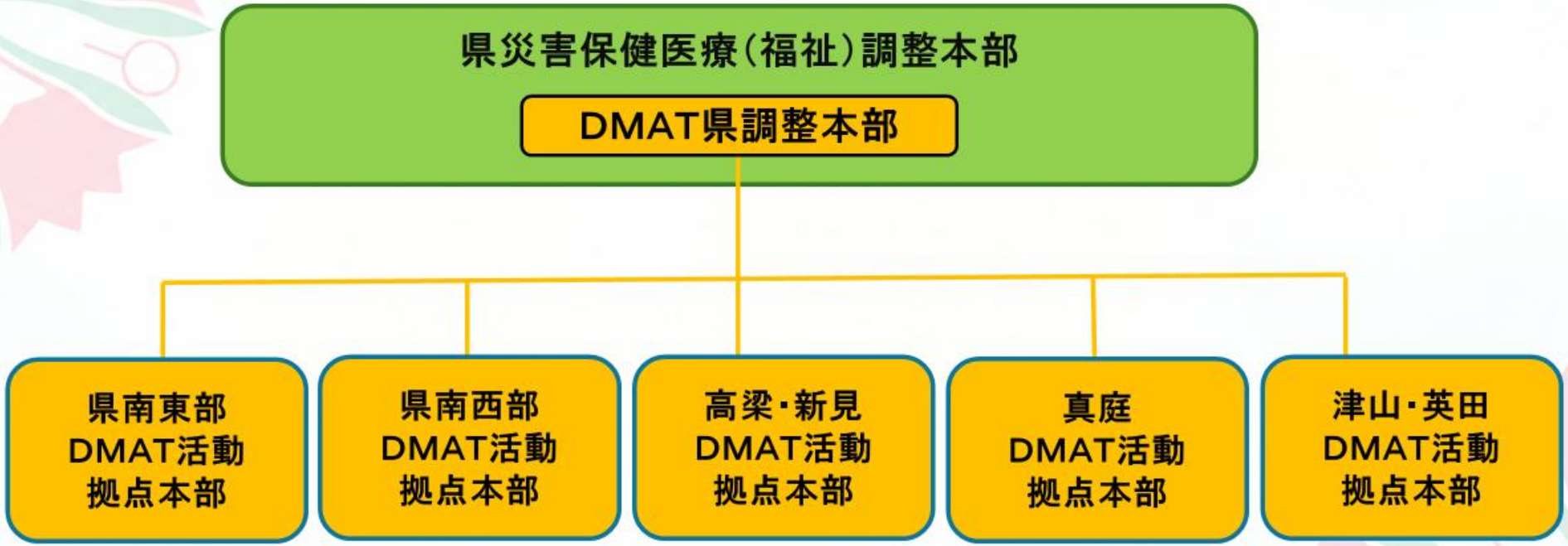
| 岡山県災害対策本部の体制 | 地震 | 岡山県DMAT調整本部の体制 | EMISモード | | 県庁DMAT担当者等の対応 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | モード | 備考 | |
| 特別警戒体制 | ・震度５（弱） | 警戒体制 | 警戒モード | 【以下①、②の場合は、モード切替】<br>①南海トラフ地震臨時情報発表（調査中、巨大地震警戒、巨大地震注意）<br><br>②地域の限定的な災害が発生した場合又は発生することが想定される場合 | ○警戒 |
| 非常体制（岡山県災害対策本部設置） | ・震度５（強） | | | | ○自宅待機（状況により登庁）<br>○DMAT隊員への注意喚起<br>※DMAT隊員は自動待機 |
| | ・震度６（弱）以上 | 非常体制<br><br>（岡山県DMAT調整本部設置）<br>（統括DMAT登録者登庁） | 災害モード | 15名以上の傷病者が発生すると見込まれる航空機墜落事故が発生した場合はモード切替 | ○登庁<br>○DMAT隊員への待機要請 |

# 県・DMATの組織体制




※SCU（航空搬送拠点臨時医療施設：ステージング・ケア・ユニット）とは、自衛隊機やドクヘリ等による患者搬送を行うための救護所として、航空搬送拠点に設置されるもの。患者の症状の安定化やトリアージが行われ、受入病院に順次搬送を行う。

# 県組織図とEMISによる被害状況確認のエリア分け

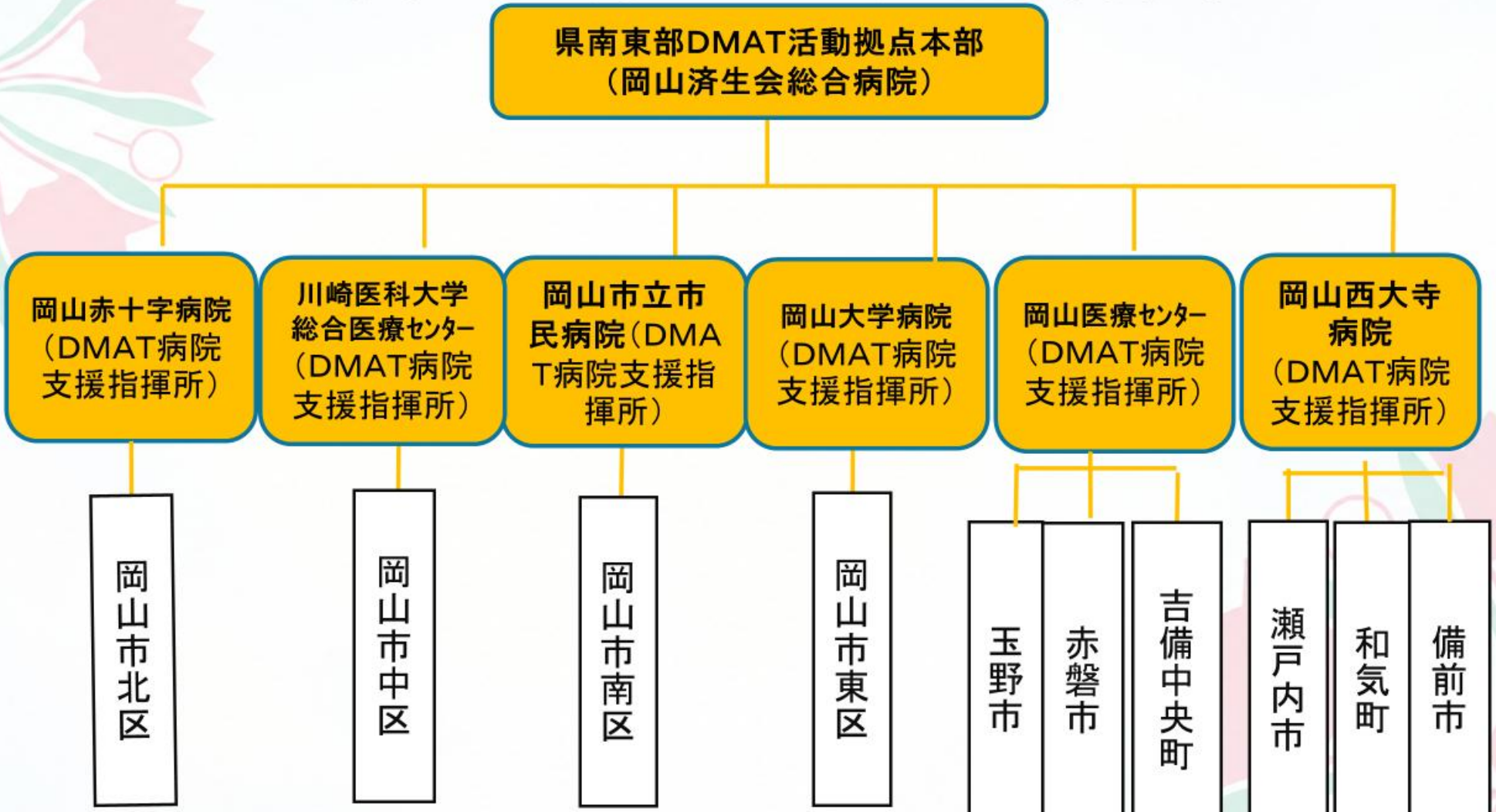



初動時の各活動拠点本部病院の活動

まずは院内本部の立ち上げを行う

同時に自院の隊で活動拠点本部の立ち上げを開始する

# EMISによる被害状況確認のエリア分け（県南東部）



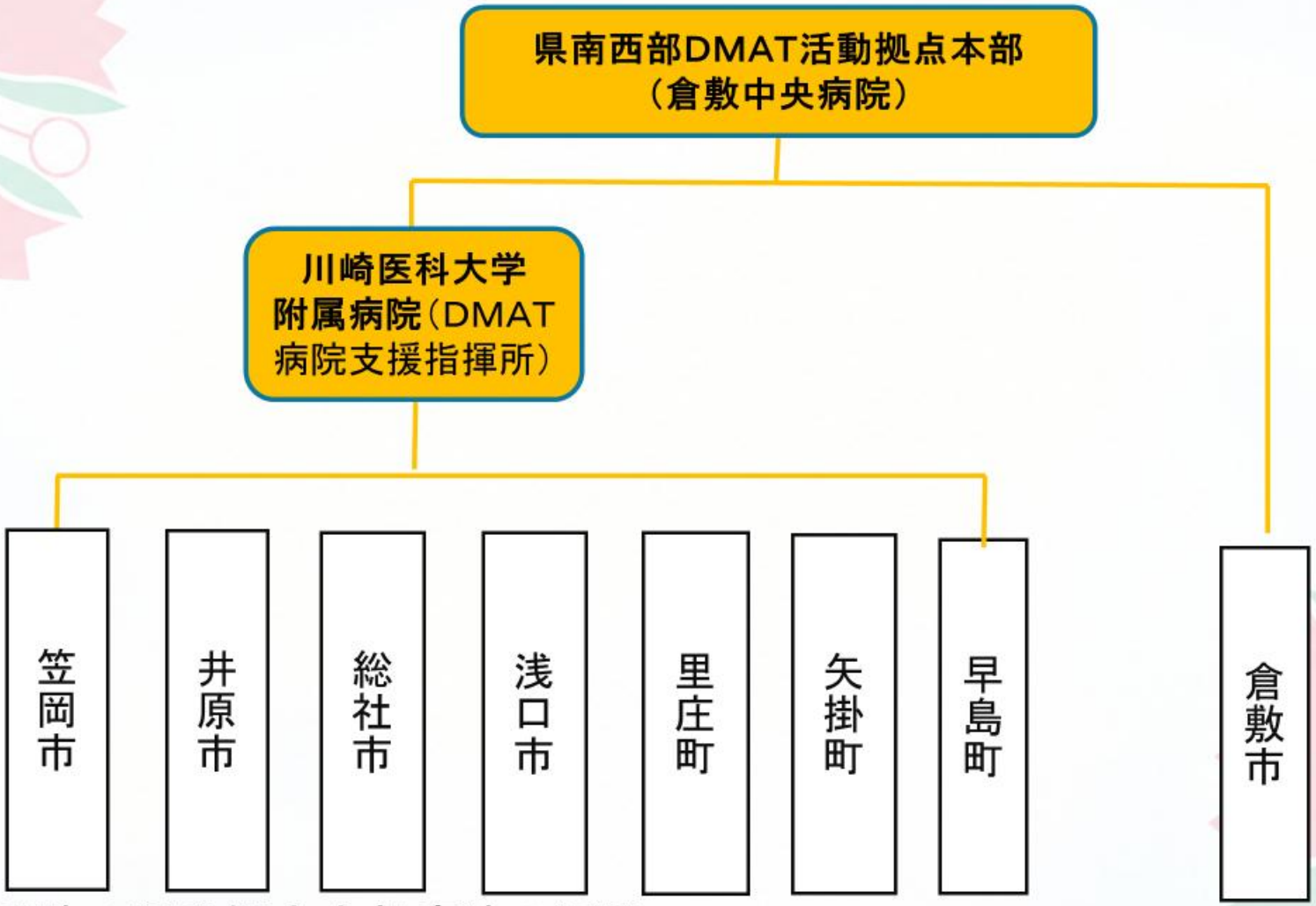

**初動時の各災害拠点病院の活動**

まず院内災害対策本部の立ち上げを行う（１隊）

同時に自院の隊で各担当エリアの情報収集を行いEMIS入力する（１隊）

病院支援指揮所の立ち上げは被災状況に応じて上位から指示があったときに行う

# EMISによる被害状況確認のエリア分け（県南西部）




初動時の活動拠点本部病院の活動

まずは院内本部の立ち上げを行う

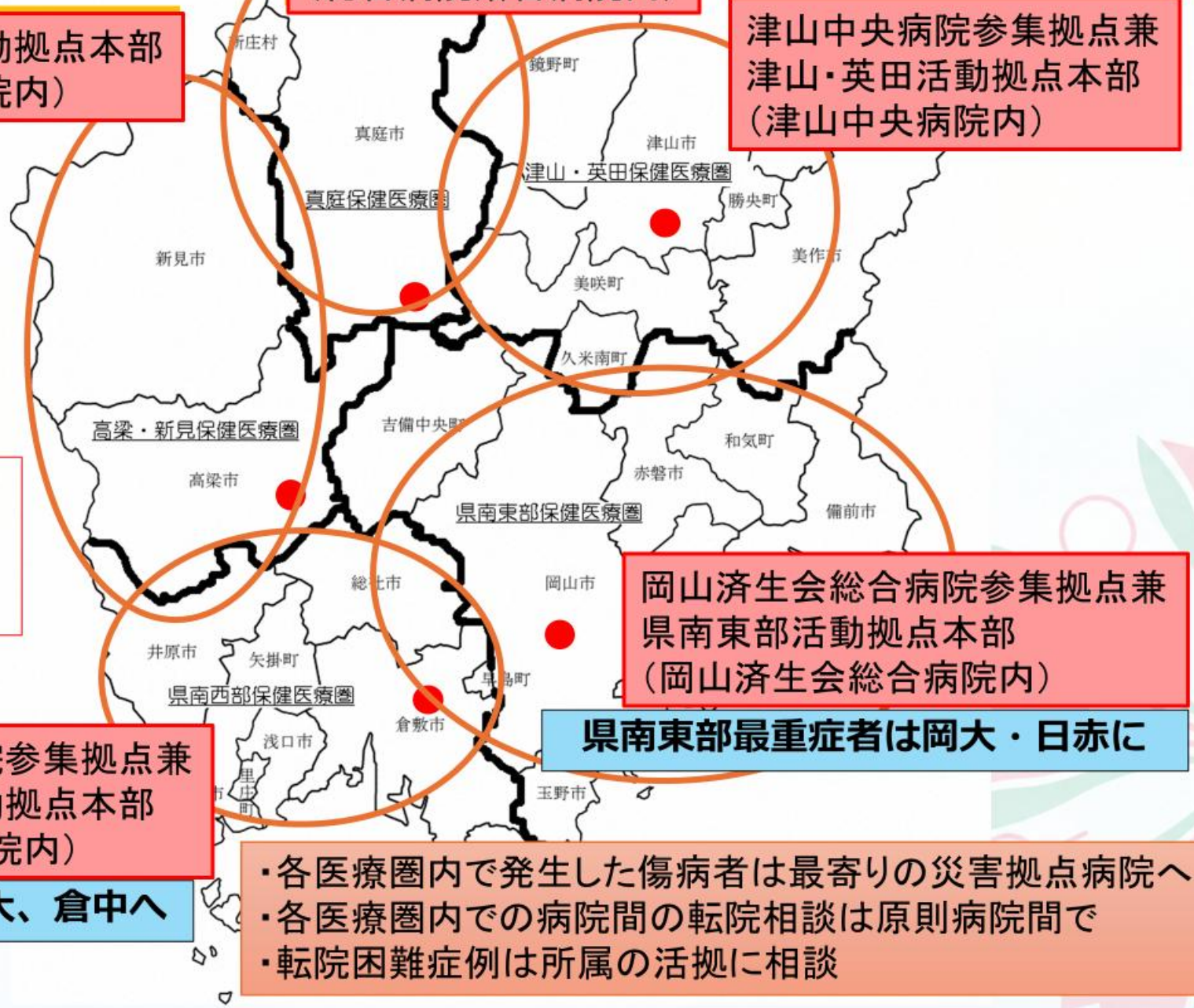
同時に自院の隊で活動拠点本部の立ち上げを開始する

# 患者搬送フロー

真庭活動拠点本部
（総合病院落合病院内）

高梁・新見活動拠点本部
（高梁中央病院内）

津山中央病院参集拠点兼
津山・英田活動拠点本部
（津山中央病院内）




発災超急性期現場からの搬送は通常の消防運用が想定される

岡山済生会総合病院参集拠点兼
県南東部活動拠点本部
（岡山済生会総合病院内）

**県南東部最重症者は岡大・日赤に**

倉敷中央病院参集拠点兼
県南西部活動拠点本部
（倉敷中央病院内）

**重症者は川大、倉中へ**

・各医療圏内で発生した傷病者は最寄りの災害拠点病院へ
・各医療圏内での病院間の転院相談は原則病院間で
・転院困難症例は所属の活拠に相談

# 医療機関の組織化




平時は医療機関はそれぞれ独立した組織
効率的な運用ができるように組織化

# 医療機関の組織化



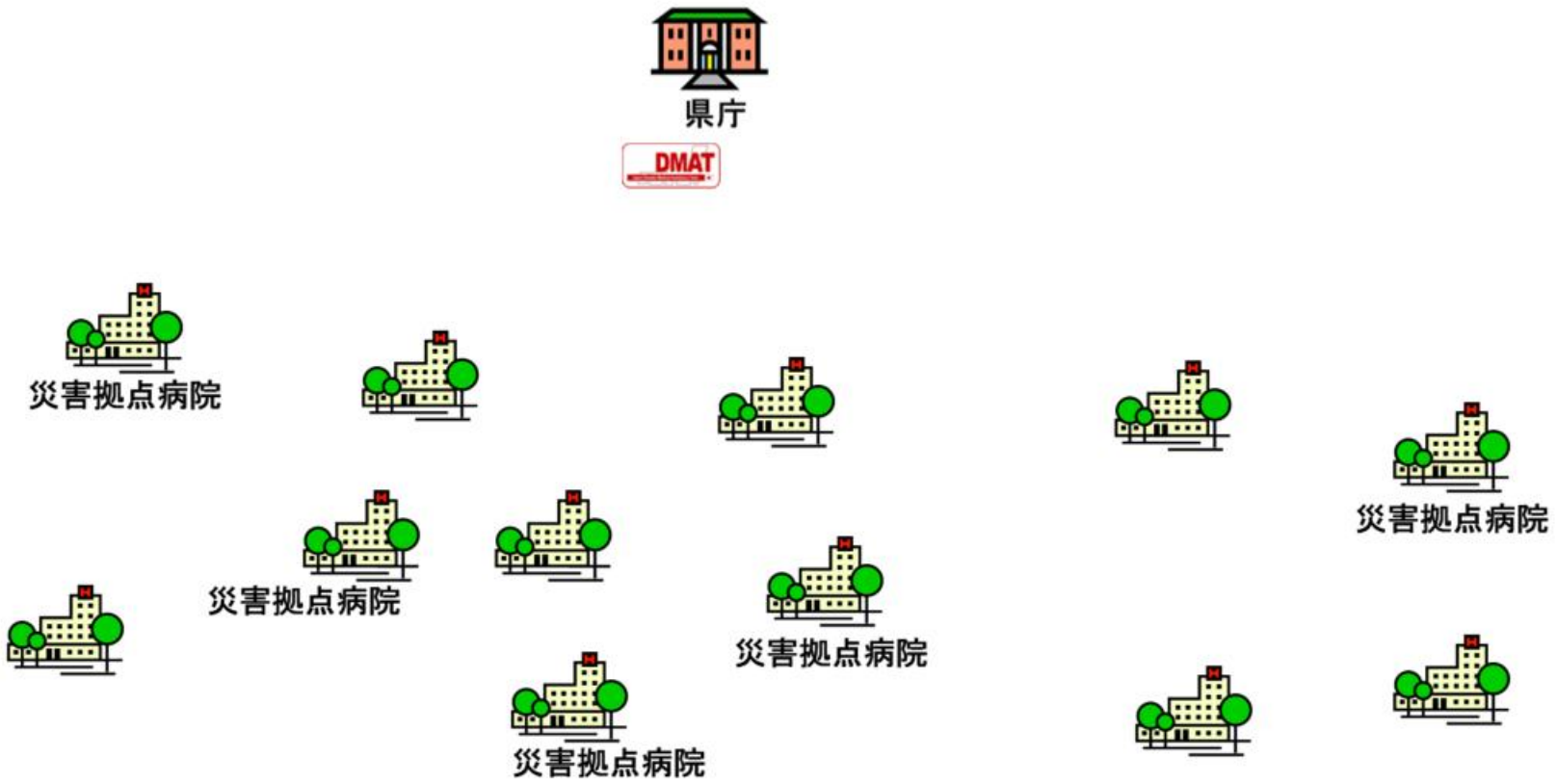

平時は医療機関はそれぞれ独立した組織
効率的な運用ができるように組織化

# 医療機関の組織化



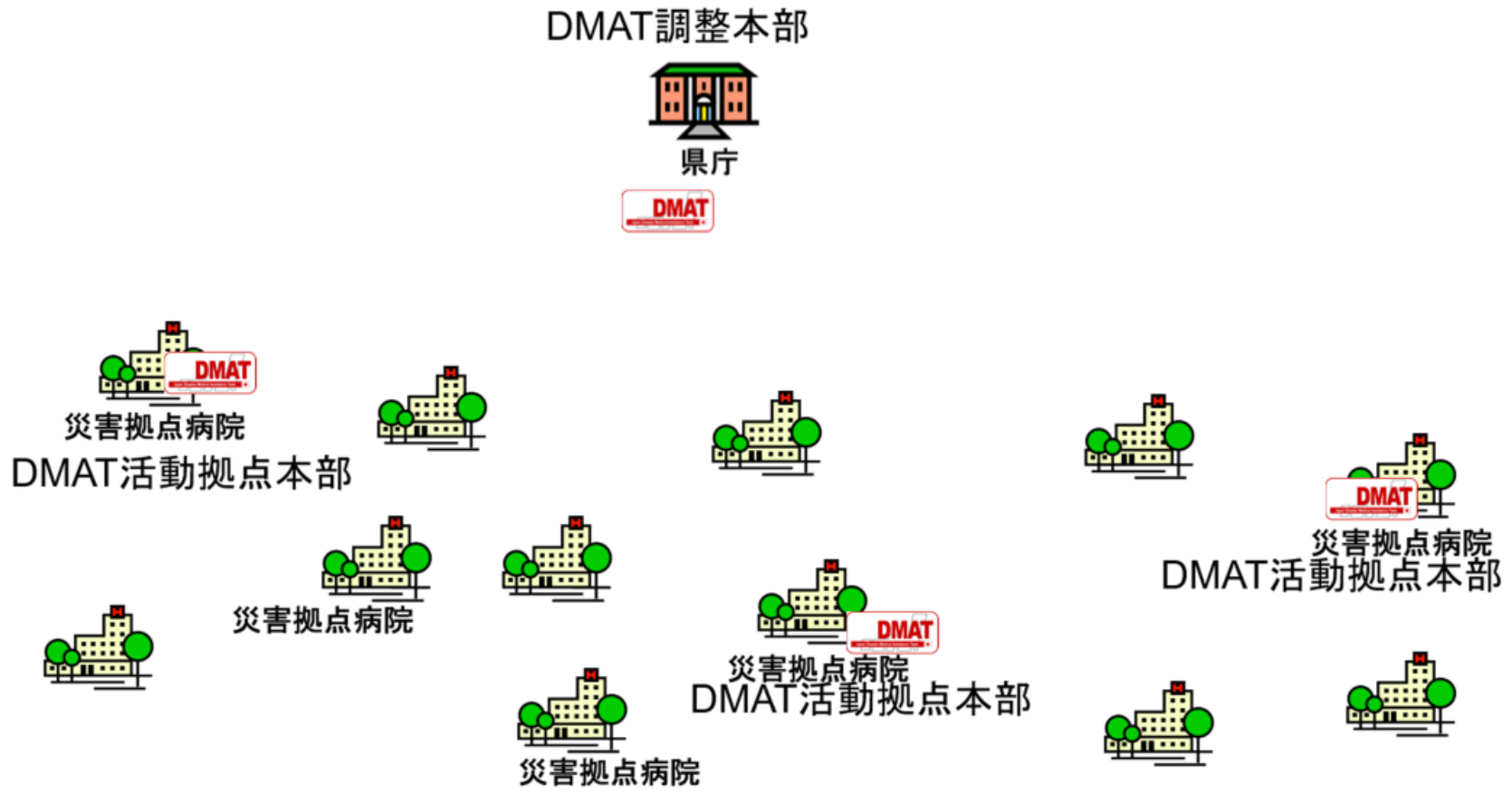

平時は医療機関はそれぞれ独立した組織
効率的な運用ができるように組織化

# 医療機関の組織化



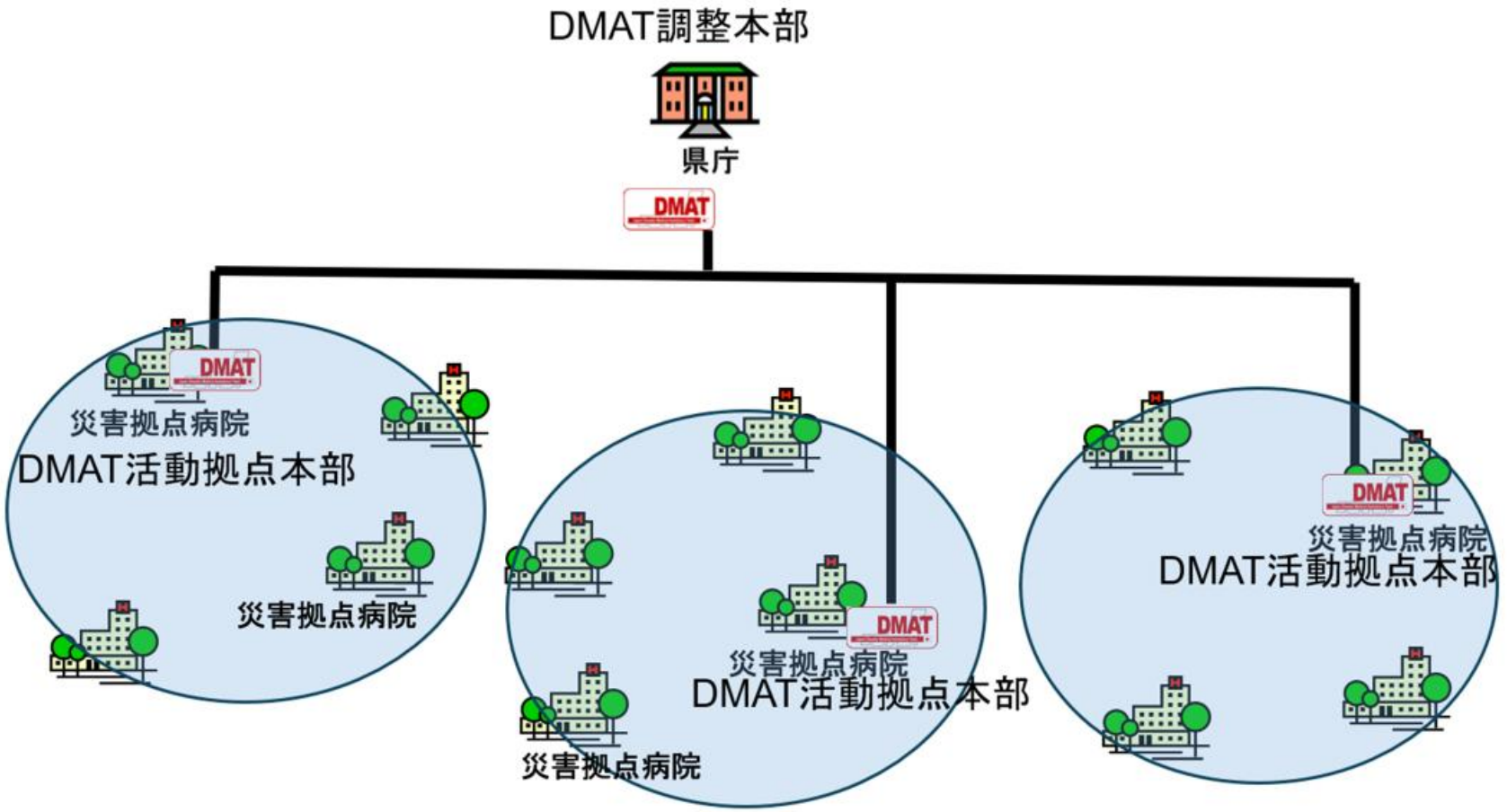

平時は医療機関はそれぞれ独立した組織
効率的な運用ができるように組織化

# 医療機関の組織化




平時は医療機関はそれぞれ独立した組織
効率的な運用ができるように組織化

# 医療機関の組織化




平時は医療機関はそれぞれ独立した組織
効率的な運用ができるように組織化

# ということで、各災害拠点病院は

# 活動拠点本部と災害拠点病院の初動

**初動時の各活動拠点本部病院の活動**

・まずは院内本部の立ち上げを行う
・同時に自院の隊で活動拠点本部の立ち上げを開始する
　DHCoSを参考に地域の被災を分析開始（３隊）

**初動時の各災害拠点病院の活動**

・まず院内災害対策本部の立ち上げを行う（１隊）
・同時に自院の隊で各担当エリアの情報収集を行い
　EMIS入力する（１隊）
・病院支援指揮所の立ち上げは被災状況に応じて
　上位から指示があったときに行う
・**地域の傷病者、患者を受け入れる**

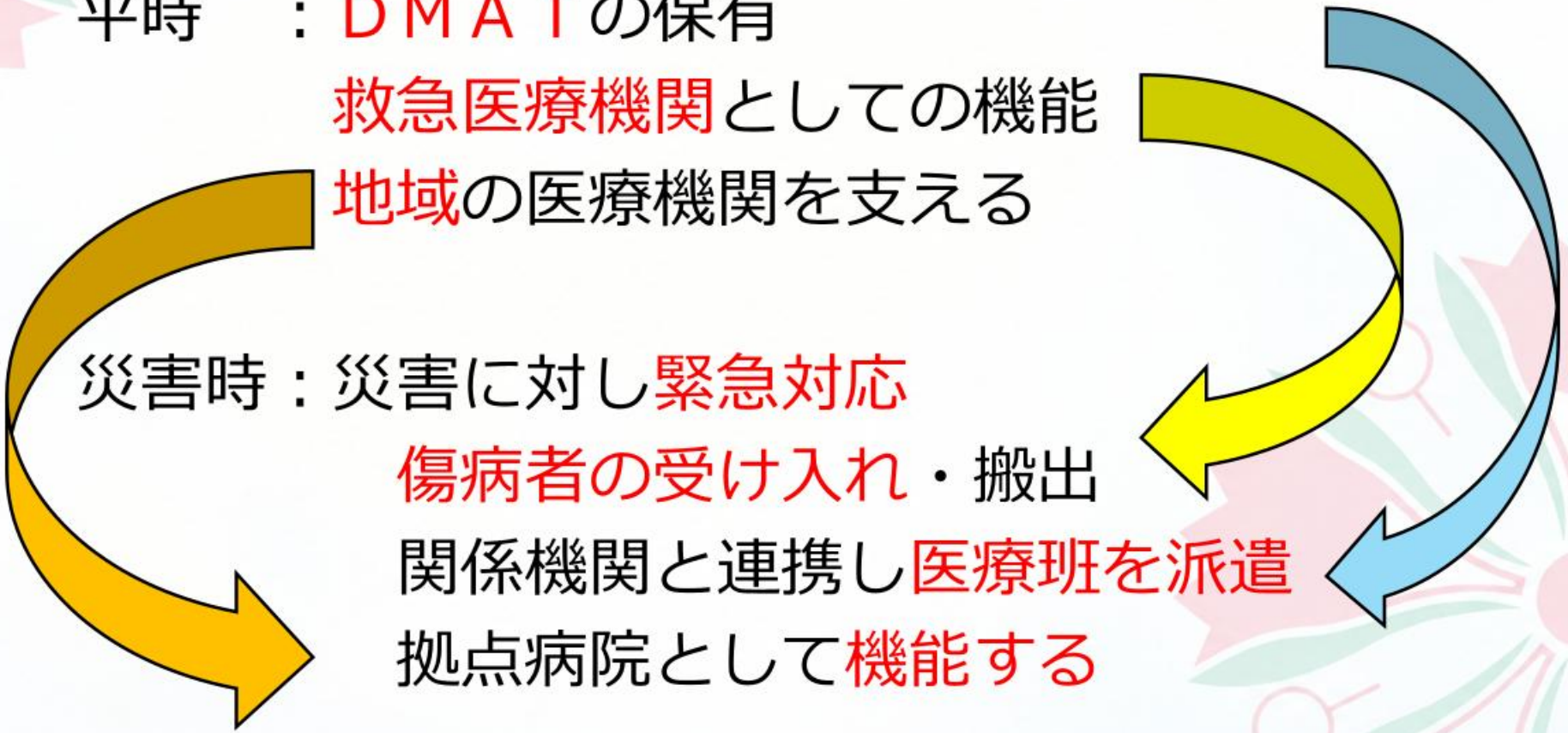
# 地域災害拠点病院の災害時の主な役割

- **発生した傷病者の受け入れと治療：**
  24時間体制で緊急対応を行い、外傷や重篤な患者を受け入れて診療を行う👉**通常の救急医療**
- **地域医療のバックアップ：**被災した周辺の病院や診療所を支援
  地域全体の医療体制を維持する👉**地域医療連携**
- **DMATの派遣：**災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣👉**EMIS**
- **医療救護班の派遣**：地域内の避難所や救護所へ医療班を派遣
- **患者の搬送・広域搬送**：ヘリコプターや緊急車両等を使用し、
  地域の重症者搬送や受け入れを担う👉**ヘリポートの整備**

# 災害拠点病院の役割

**全職員の協同が不可欠**

平時　：ＤＭＡＴの保有
　　救急医療機関としての機能
　　地域の医療機関を支える



災害時：災害に対し緊急対応
　　傷病者の受け入れ・搬出
　　関係機関と連携し医療班を派遣
　　拠点病院として機能する

災害の規模に応じて対応する（局地災害ｏｒ広域災害）

# 結局普段の延長（かも）、どうしますか

- 災害時に全く新たな院内組織図を構築する？
- 既存の組織図に新設部門を作る？
- 組織図内の部門規模（人員配置など）を再検討する？
- 各医療機関で取り組みやすいやり方は？

👉**BCPの準備、訓練、改定**

# 何か起こったときの（災害等）呪文

# （災害拠点）病院の事態に対する体系的な対応

## ＣＳＣＡＴＴＴ

| | |
|---|---|
| Ｃ：Ｃｏｍｍａｎｄ　＆　Ｃｏｎｔｏｒｏｌ | 指揮と連携 |
| Ｓ：Ｓａｆｅｔｙ | 安全 |
| Ｃ：Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ | 情報伝達 |
| Ａ：Ａｓｓｅｓｓｍｅｎｔ | 評価 |
| Ｔ：Ｔｒｉａｇｅ | トリアージ |
| Ｔ：Ｔｒｅａｔｍｅｎｔ | 治療 |
| Ｔ：Ｔｒａｎｓｐｏｒｔ | 搬送 |

**事態（災害）の規模に応じて対応する**

# 病院レベルで考えると

- **C**（Command & Control：**指揮連携**）
  明確なリーダー（指揮者）を決め、組織として一元的に動く体制
- **S**（Safety：**安全確保**）
  医療スタッフ、病院施設、そして患者の安全を最優先に確保
  （医療が被災しては治療ができない）
- **C**（Communication：**情報通信**）
  病院内だけでなく、警察・消防・他の病院などと正確に情報共有
- **A**（Assessment：**評価**）
  被害の大きさなど現状を分析し、活動方針（運営方針）を決定

# 各病院で院内個人レベルで考えると

- C　誰の指示のもと
- S　どのように安全を保ち
- C　どのように連絡・連携を取りながら
- A　どのような活動をしていくか

- T　どのような傷病者から
- T　どのような治療を行い
- T　根本治療に繋げるか（手術・入院・転院）

# 災害拠点病院の覚悟

- 院内の災害関係者だけでなく病院全職員が理解する事
- 全職員で同じ目的目標を目指して活動する事
- 支援に来てくれたDMATなどすべての医療者と協力する事
- 被災者・地域の為になんでもすること

# 地域の災害拠点病院の覚悟




- 地域住民の最初の砦となる事
- 傷病者、支援が必要な人、地域の人
- まず受け入れて適切なＴＴＴ、支援を届ける事

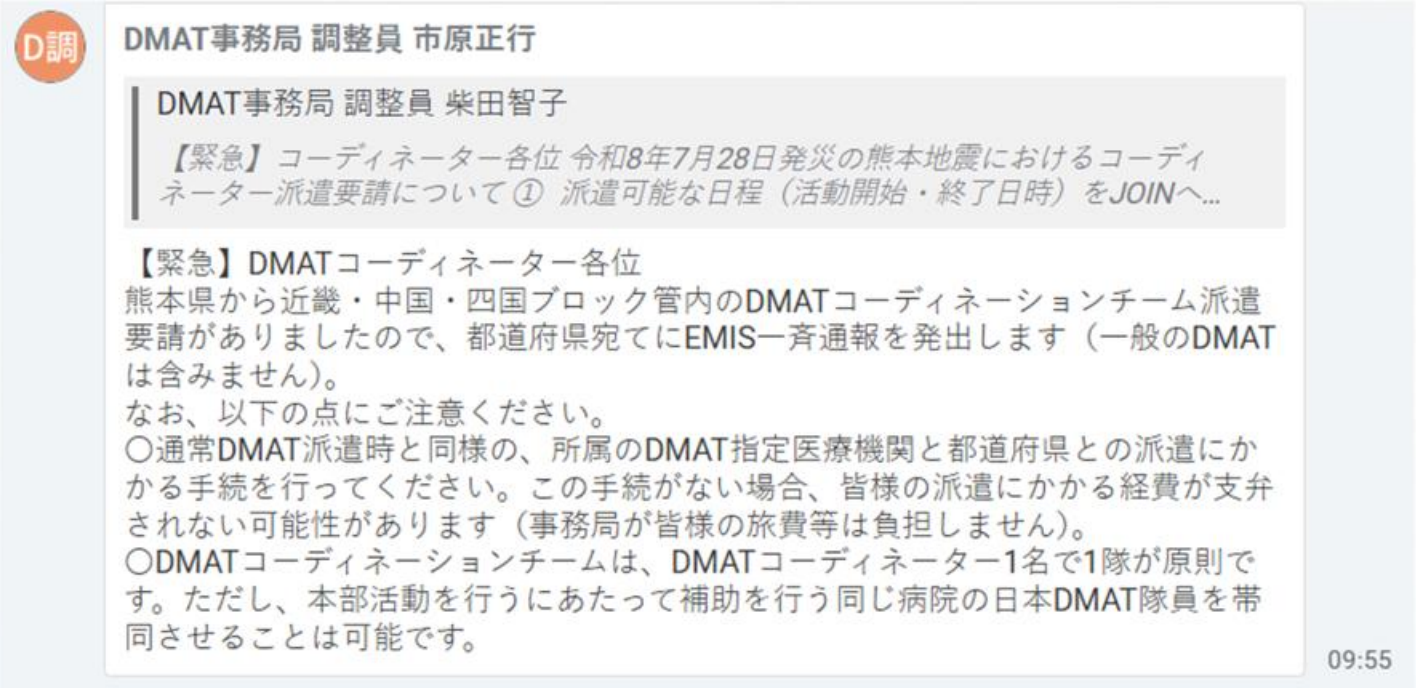
# 熊本地震

- 2026年（令和8年）7月28日16時27分に日本の熊本県で発生
- 地震の規模は気象庁マグニチュード　7.1
- 震源の深さは16 kmで
- 熊本県の宇城市と八代郡氷川町で最大震度7を観測

# 県庁本部立ち上げ

- 決まりがあります
- 熊本で震度６強以上➡「警戒体制」
- 県外派遣を行う➡「警戒体制」

岡山県ＤＭＡＴ調整本部を設置、統括ＤＭＡＴ登録者が登庁




７月２９日０９時５５分

➡県庁本部立ち上げ決定

コーディネーションチーム派遣

# コーディネーションチームについて

医政地発 0722 第 2 号
令和 7 年 7 月 22 日

各都道府県衛生主管部（局）長　殿

厚生労働省医政局地域医療計画課長
（　公　印　省　略　）

日本ＤＭＡＴ活動要領の一部改正について

平素より災害・感染症医療対策につきましては、御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今般、災害発生時及び新興感染症発生・まん延時において、災害派遣医療チーム（以下「ＤＭＡＴ」という。）がより効果的に活動できるよう、日本ＤＭＡＴの活動や研修のあり方について、日本ＤＭＡＴ検討委員会において検討されました。

6．ＤＭＡＴコーディネーションチーム
- ＤＭＡＴコーディネーションチームは、ＤＭＡＴコーディネーター及びＤＭＡＴ登録者により編成される。
- ＤＭＡＴコーディネーションチームは、都道府県ＤＭＡＴ調整本部やＤＭＡＴ活動拠点本部等での本部業務を主に行い、統括ＤＭＡＴ登録者をサポートする。。

7．ＤＭＡＴコーディネーター
- ＤＭＡＴコーディネーターは、ＤＭＡＴコーディネーター認定要件を満たし、厚生労働省に登録された者である。
- ＤＭＡＴコーディネーターは、平時は日本ＤＭＡＴの運用全体を把握し、研修における受講者へのインストラクションやコース運営と訓練における企画・運営を担い、災害時には、ＤＭＡＴコーディネーションチームとして、被災都道府県ＤＭＡＴ調整本部や活動拠点本部等での本部支援を行う。
- 認定要件、更新要件は、日本ＤＭＡＴ検討委員会が定める。

- 複数名ではなく、資格のある隊員で１名１隊が原則
- 現地に派遣、他のコーディネーター達とともにチーム編成される
- DMAT本部を機能させる為の調整・情報・ロジスティクスを担うチーム

# 通常隊の派遣要請

【緊急】令和8年熊本地震におけるDMAT２次隊派遣について EMIS ×

emis@emis.mhlw.go.jp 7月29日(水) 15:58
To 自分

中国ブロック、四国ブロック、九州・沖縄ブロック
都道府県災害医療担当者各位

厚生労働省DMAT事務局

7月29日に発生しました令和８年度熊本地震について、熊本県からDMAT２次隊の派遣要請がありました。詳細は下記のとおりです。

記

1．派遣要請都道府県：中国ブロック、四国ブロック、九州・沖縄ブロックの各県にDMATの派遣を要請いたします。

2．各県へのDMAT派遣要請チーム数（目安）及び参集拠点について
熊本県からの派遣要請に基づき、下記のとおり要請チーム数及び参集拠点について記載しました。なお、要請チームは調整頂く目安とお考えいただき、チーム数の多少の増減は問題ございません。
・徳島県8隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・香川県5隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・愛媛県6隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・高知県10隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・鳥取県2隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・島根県6隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・岡山県6隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・広島県10隊、参集場所：熊本県央南活動拠点本部(済生会熊本病院内)
・山口県9隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)
・福岡県8隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)
・佐賀県3隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)
・長崎県4隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)
・大分県6隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)
・宮崎県4隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)
・鹿児島県5隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)
・沖縄県8隊、参集場所：熊本県南活動拠点本部(熊本労災病院)

3．参集拠点への到着時刻
・7月30日（木）概ね16時～17時ごろ

4．出動可能なDMATについて、広域災害・救急医療情報システム（EMIS）に入力するようご指導方、よろしくお願いいたします。

5．出動チームの決定について
・各県で出動チームが確定後、当事務局下記連絡まで架電いただきたい。

７月２９日１５時５８分
岡山県へ６隊の派遣要請
７月３０日に現地着で

県として
通常隊の派遣調整
・隊の基本構成
・医師１名看護師２名
　業務調整員１名
これを必須、優先事項とし
派遣病院を決定します

**ロジスティック力として派遣されるのは**
**前述の「コーディネーションチーム」です**

# ということで

- 熊本地震発災
- DMATコーディネーションチーム派遣の為県調整本部立ち上げ
- 通常隊の派遣も決まり
- 岡山県DMAT調整本部、派遣されるDMAT隊、隊員の活動開始





# それぞれの活動へ続く